京都文教大生による宇治商工会議所会員企業・団体紹介〔第 20 回〕

～社会人0年生の私たちが見つけた企業と地域の魅力～

2023 年 10

地域連携学生プロジェクト REACH × 放課後等デイサービス「ANERA」

子どもが第一！自由さと豊富な体験でより良い自立を目指して

当事者との交流を通じ、人の多様性理解を図る地域連携学生プロジェクト「REACH」が、放課後等デイサービス「ANERA」の施設長 小島朋也さんにお話を伺いました。

【子どもたちが羽ばたくために】

取材対応いただいた小島施設長

大学卒業後、銀行に務めていた小島さんですが、子どもが好きという思いと、大学時代の放課後デイのアルバイト経験から、福祉の道に進みたいと思い、銀行を退職。専門学校に通い、社会福祉士の資格を取得し、ANERAに転職しました。ANERAでは、体を動かす「運動」、あいさつや言葉づかいといった「礼儀」、卒業後の進路に向けての「集団生活」、この3つを柱に設け、「子どもらしく」を大切にしながら、「思いやりと協調性」を身につけることを目標に、療育支援のプログラムを日々行われています。また、ここでのプログラムや生活が経験となり、子どもたちの自信に繋がり、将来への自立意識を高められるよう、様々な取組を工夫して行っています。

【子どもたちにより多くの経験を】

ANERAでは、近隣の福祉施設とのイベントなど、地域交流を大切にしています。ハロウィンの時期には、子どもたちが仮装をして老人ホームを訪問し、利用者の方からおやつをもらうのが恒例行事となっています。老人ホームの利用者の方も、子どもたちが来るのを楽しみにされており、仮装をして待ってくれているそうです。核家族化が進んでいるこの時代において、多世代交流の機会は子どもたちの成長のために大切なことだと感じました。

また、日々の活動内容を決める際に子どもたちの意見を取り入れるところが大きな特徴です。「お寿司を食べに行きたい」という子どもの声を受けて、実際に寿司屋さんへ行ってみるなど、可能な限りで子どもの意見を取り入れています。子どもたちが社会に出ていく上で，自分で考えて行動する力は重要です。そのために、ANERAでは子どもの間から自分の意見が受け入れられ、叶えてもらう経験をたくさんできる環境づくりを意識されています。

【保護者と思いを共有する】

取材の様子

ANERAでは、子どもたちもパソコンを使うことができますが、利用時間が決まっていて、守れないと次回から使用できない、といった厳しいルールがあります。その一方で、自由時間を多く設けているのも特徴で、宿題をする子もしない子も、各々が自由に選択し、思い思いの時間を過ごしています。「卒業後にスムーズに会人になることができる力」を養うという目標があるからです。時には「今日はANERAに行きたくない」というお子さんもいますが、無理に行かなくていい、というスタンスを取っておられ、自分の意思で行きたいと思うことを大切にされています。私たちが学校をズル休みした時に感じるように、「行かなかったことに対する罪悪感もあるだろうから、自分の中で気持ちを入れ替えてまた来てくれたらいい」と話されていました。

これらの根底には、常に「学校では固定化された中でがんばっている分、放課後デイではゆっくり過ごしてほしい」という保護者とANERAの共通の思いがありました。

【今回の取材先】

放課後等デイサービス「ANERA」

株式会社 OHANA が運営する放課後等デイサービス。2019年に開業し、2020年に現在の五ケ庄に施設を移転。小学1年生から高校3年生までの30名ほどが、週に1～5日のペースで通所しています。OHANAはハワイの言葉で「家族」。ANERAは「天使」という意味です。

【今回の取材担当】

地域連携学生プロジェクト REACH

2019年設立。薬物依存や障害などを抱えながら地域で暮らす多様な人々との対話や交流を通して、お互いを理解し、偏見のない「共生社会」の在り方を考える学生プロジェクト団体。

今回、取材・記事作成を担当した学生のみなさん。ANERA小島朋也さんを囲んで、右から木村咲代さん、西﨑 歩未さん、齋藤凜さん（共に臨床心理学部2年次生）